

文教厚生委員会会議録

平成25年11月11日（月）

午前 9時30分 開会

○澤田勝委員長

おはようございます。ただいまから、文教厚生委員会を開会します。教育長先生は、公務で少し遅れて入室されますのでよろしくお願いいたします。今日は協議題としまして、閉会中の調査事項についてを議題といたしますが、内容としましては半田市における幼保小中一貫教育についての現状をとということで、当局の方からご説明を求めたいと思います。また、そののちに前回の委員会での質疑が2点ほどあったと思いますので、それも後ほど議題に取り上げたいと思いますので、よろしくお願いいたします。それでは、早速ですが、幼保小中一貫教育における半田市の現状ということで、ご説明をお願いしたいと思います。

○波田聡指導主事

【資料に基づき説明】

○澤田勝委員長

わかりやすいご説明ありがとうございました。幼保小中一貫教育における半田市の現状ということで、ご説明いただきましたので早速委員の方からご質疑がありましたらよろしくお願いいたします。

○鈴木幸彦副委員長

今ご説明いただいて、ほんとわかりやすかったなというふうに思いました。今教育長先生はじめ半田市が掲げるキャリア教育を先生方が意識して子どもたちに伝えている姿が本当によくわかったんですが、子どもたちはそういうキャリア教育がどういうもので、子どもたちにどういうふうに伝わっているのか、ただ普通に授業を受けている中で自然に落とし込んでいくものなのか、こういうことを教えられているということがわかったのかとか、それがどのように子どもたちに伝わっているものをどうやってチェックしているのか、質問がまとまりませんが、教えていただきたいと思います。

○波田聡指導主事

ご質問いただいた内容ですが、まず子どもがどれくらいそれを意識しているかということについてですが、成岩小学校、有脇小学校については、キャリア教育というものが学校の現職教育の中心として、これを進めているので、子どもたちもかなり毎日の授業の中とかでキャリア教育の内容であるとか、先生達がそういう狙いをもって取り組んでいることについては、子どもたちに伝わってきているだろうなと思います。特に成岩小学校については、ご覧頂いて、お分かりいただいているように、掲示物もかなりそれを意識した、スポーツ選手の言葉であったりとか、いろんな科学者の言葉であったりとか、夢や目標を持つことの大切さに触れられるような掲示にしているので、かなり伝わっているだろうなと思います。一方、通常の学校については、それぞれの学校が大切にして今取り組んでいる現職教育というものがあります。例えば認め合うということに対して、これは板山幼稚園であるとか、乙川中学校は大切にして取り組んでいます。そういったところは、認め合う力というのは、実は4つの力というと、「かかわる力」とか、「いかす力」のところに関わってきます。ですので、そういった学校はその認め合うという活動を大切していきながら、それを取り組むことによって、この4つの力のうちの2つの力を中心に伸ばしていく取り

組みになるんですが、そういったいわゆる中心にして取り組んでいない学校については、子どもたちがどれだけ理解できているか、どれだけ知っているかということについては、教育委員会としての働きかけがまだ不十分なところもあるんですが、まだまだであるなどということが実際です。今ご意見いただいたところを聞くなかでも、例えば掲示なんかは子どもたちも非常にわかりやすいと思うので、そういったところを中心にもっともっと各学校でも子どもたちが理解できるような取組みを進めていく必要があるなと思います。もう1つご質問いただいたところは、チェックですね。具体的なキャリア教育のアンケートということにつきましては、それを中心に取り組んでいる有脇小学校だとか、全壊見ていただいた成岩小学校、特に成岩小学校はいろんな項目に沿って、4つの力もさらに細かく分けて、グラフがあったと思うんですが、あのあたりのところでチェックをしているというふうに思います。他の学校については、先ほどお話しさせていただいたキャリア教育をメインにして取り組んでいないところについては、その4つの力のどれが関わるかということでもやってもらっているんですが、そういったところは例えば乙川中学校やなんかは、その学校の現職の振り返りということで、子どもたちにアンケートを取る中でその様子を図るということになるので、4つのすべての力についてどれだけかということが、きちんと取れているかどうかと言われれば、不十分なところがあるなと思います。ただ、学校評価のアンケートの中で、子どもたちのキャリア教育に対する考え方とかを拾うことは可能で、そういったところからは寛得しているところもあるなと思います。また、全国の学力学習状況調査の中で、将来の夢や目標を持っているかという質問肢のところがあり、そういったところでも各学校ははかれるので、これはまた教務主任者会で自分も話をして行きたいなと思っているところですが、そういったもので各学校把握をしていきたいなと思います。

○竹内功治委員

いろんな具体的な取組みをしていることがわかりました。安心はさせていただいたんですが、キャリア教育の研究発表会のところにも改善点としてあげられているんですが、幼児期のキャリア教育の取組みについてが正直今回でも具体的なことが無かったんですが、その辺りはどの様な取組みをされているんでしょうか。

○波田聡主任指導主事

幼稚園、保育園の取組みについても昨年度末のところ、実践については報告をいただいています。ここにその資料はないんですが、幼稚園保育園は本当に何をやっているのかというのは、当初幼稚園保育園の先生方にも私が平成24年度当初、園長会議で、幼稚園、保育園の園長先生、主査先生の方に説明をさせていただいた時に、何をやったらいいのという話を聞いたんですが、開いていただいたリーフレットの一番下ですね。これがこの中身が幼稚園保育園の先生方の意見を入れて考えたものなんですが、こういったことが実は幼児期におけるキャリア教育なんですね。例えば一番左の関わる力、人とかかわっていく力、ベースはやはり幼稚園保育園、もちろん家庭も大事なんですけど、そういったところで育てるうえで、仲良く遊ぶこととか、好きとかいやなことが言えるとか、ありがとうごめんなさいが言えると。1日の幼稚園の活動の中で指導していることです。また、いかす力のところ、これは自分の良さを活かしていくところになります。約束や決まりを守るとか、自分のことは自分ですとか、こういったことは幼稚園の指導の中でしてもらって

ます。ですので、幼稚園の先生、特に子供がキャリア教育を意識してということは、なかなかわかっていないんだらうなと思いますが、職員はこれを意識して、これが幼児期の大切にしていきたいことなんだと。右側のこんなことがしたいとか、こんな人になりたいというものとかを大切にもらっているんですが、幼稚園ではお巡りさんが学校に来ていろんな交通ルールの説明をしてもらった時にちょっと意識してお巡りさんの仕事の話をしてもらうように話はしています。そういった場を利用して、そういった目標に対する取組みをもらっています。

○竹内功治委員

考え方、大切にしたいことというのが、よくこれでわかるんですが、こういうことを行っていけば、小1プロブレムの問題というのは解決するということなんでしょうか。

○波田聡指導主事

このプロブレムのところを、先ほども言いましたように、1年生と同じ目標にしているんです。この紙に書いてあるものだけではやはり難しいと思うんですが、今本当に校区ごとに、中学校区で幼保小中の懇談会を進めてもらっているところが、非常に効果があるところで、集まった時にここの内容について、やはり話題にして話をしてもらいます。そういった意味で、共通の話題としてこれは使ってもらっているんですが、今実際に1年生どうだろうかという話をその場でしてもらっています。そこでの話し合いとか、特に3つの内のここが弱いんじゃないのという話になれば、それを取り組んでもらうとか、ここに書いてあるだけではだめなんです、具体的な活動として中学校区の幼保小中の懇談会を行っているところが、このプロブレムを乗り越えるものになっていくだらうなと思っています。また実際にいいのは、幼稚園の先生が校区の実際に上がった小学校の子どもを見ることによって、実際に自分たちが育ててきた子が、こんなふうになっているんだという姿を、また逆に小中の先生が幼稚園等に行くことによって、こういう子たちが実際に上がってくるんだということがわかることによって、見ることによって指導の見通しをもつことができるというか、具体的な子どもの姿からそういったものを持つことができる。そういったことがこのプロブレムを乗り越えるものかなと考えています。

○竹内功治委員

なんとなくはわかりました。ありがとうございます。それで、もう1つちょっと質問なんですが、実際のところ今の小学校に入学の3分の1は私立の幼稚園に通っている子どもたちだと思うんです。私立の子どもたち、小1プロブレムもそうですけど、私立の幼稚園との連携であったり、そのあたり。幼保一貫教育、キャリア教育の方についての指導はどうなっているんでしょうか。

○波田聡指導主事

5つの中学校区の幼保小中懇談会なんですが、私立も取り込んでいます。ちょうど立ち上がりの23年度の初めに、私立の学校にまわりまして、こういったものを作って、こういった指導していますと。もちろん私立には私立の考えとか大切にしたいことがあるんですが、これ見ていただくと、うちの幼稚園でもやれるよとか、当然大事なことだよねということを声をいただいて、私立でキャリア教育をメインにしてというわけではないんですが、半田市でやっている大事なこととかを理解いただいて、それを進めていただいています。毎回懇談会ごとに、だいたい中学校区でいわゆる園長先生とか校長先生が集まる、

いわゆる幼保小中懇談会は年3回から2回です。各校区で行っているのは。そこで、ある程度大きな目標とか話題とかを決めていくんですが、そこには必ず声もおかけして、もちろん都合によってこれない私立の方もみえるんですが、そういう場を持って情報交換をしているところです。

○竹内功治委員

お話を聞いて、先日視察に行った宇都宮市よりこの部分では進んでいるのかなと感じました。もう1点だけお伺いしたいんですが、ちょっとある意味ずれるのかもしれませんが、障がい子どもたちとか、保育園でいうとつくし学園の子どもたちとか、そういう子どもたちに対してキャリア教育というのは、どのように推進されているのでしょうか。

○波田聡指導主事

今お話しいただいたつくし等の学校にもこのリーフレットを持っていきまして、お話しをしています。懇談会の際には声をかけて、集まっていただくようにしているので、もちろん特別な支援の必要な子たちについても、職員が目標を持ちながら、それぞれ持っている力があって、その中での最大限のというところはあるんですが、共通理解はかりながらやっぱり行っているところです。2分の1成人式も市内に住んでいる4年生の子ということで、養護学校の子も5人来てくださいます。今年の子はちょっと話すのが苦手ということで、当初各学校の代表の子が1名ずつ発表するのが、去年はわりと話せるということでやっていただいたので、今年はどうですかと言ったんですが、養護学校の校長先生、主事の先生は非常に喜んでくれまして、今年はどうも「がんばります」くらいが精一杯ですが、是非やらせてもらいたいと言ってくださいます。そういう養護学校のところにも声をかけていて、十分なものとはいえませんが、詰めているところです。

○山本半治委員

わかりやすい説明をありがとうございました。今ご説明を聞いておまして、平成23年度からキャリア教育を進められて、モデルとして成岩小、有脇小でやっていただいていると。話を聞いていますと、他の学校の方たちにもできればやってもらえないかという、そんな言い方で聞こえてくるんですけど、もちろん自発的に各学校でいろいろなことを考えてやってくれませんかというようなニュアンスで聞こえてきてるんですけど、そういうふうに受け取っていいですか。

○波田聡指導主事

それは非常に自分の説明が悪かったところだなと思います。キャリア教育というのは、例えばどこかの学校では環境教育を中心に、校区の課題等を捉えて進めていきたいという場合にも、環境教育を考える中でもこの4つの力を育てることができるんですね。各学校には、各学校の課題とか狙いがあるって、それぞれ取り組みたいこと、やっていきたいこと、もちろんずっと継続して取り組んでいることとかもありますので、そういうのを中心にそれを進めていくことについて教育委員会から止めるということは考えてないです。これは全ての学校について、キャリア教育はきちんと捉えて、やってもらいたい。それはやっぱり目指すところは、本当に子どもたちに今の人生大切にしてもらいたいという思いがあるからであって、いわゆる先ほどもお話ししましたが、認めるとか、認め合うとか、そういう学校については、それはもちろん中心に取り組んでもらって結構なんですけど、その中でキャリア教育で大切にしたい、特にこのさっきと認めるにつながるかわる力とかいか

す力とか、これに特に重点を置きながら、進めてもらう。もちろん残りの2つはどうでもいいのかというと、そういうわけではなくって、学校の毎日の指導の中で、きちんとその4つの力、今日の授業はこれだということを捉えて進めてもらう。そういった意味では、どの学校でも取り組んでもらいというふうで、指導してきていますし、やってもらっている状況です。ただまだまだ中心となって関わっている成岩小なんかは、先生方もキャリア教育とはというところをよくわかっていると思うんですが、そうじゃないところについては、まだまだのところも実際ありますので、より具体的な取り組みを進めてもらう必要があると考えています。

○山本半治委員

各学校それぞれ特徴もいろいろあると思いますので、これがなんとか広く進めていただいて、しっかりしたものが出来れば、共有が出来ると思いますので、よくわかりました。あと、小中学校の先生の出前だとか、いろいろ実習を本当に苦労しているなというのがよくわかりました。宇都宮なんかは、他の教員を入れてやっているものですから、非常に自分たちが行った時間が空いた時には他の先生が教えるということですけども、半田市の場合は夏休みとか、卒業式が済んでからとか、非常にいろんなところでやっていただいている苦労がよくわかるんですけど、できれば本当に今からの提案になると思うんですけど、もう少し予算があれば、例えば卒業が終ってからの空いた時間で先生が小学校に行くということですけど、本当ならもうちょっとはやくから6年生の子たちには中学校の先生達の授業が聞ければもっと余裕が出来ると思うんですけど、また議会の方で提案をしていきたいと思います。

○山本博信委員

キャリア教育の中では4つの力を育てているということで、「かかわる力」「いかす力」「うごく力」「みとおす力」。これ本来家庭でやるべきことじゃないかなと私は思うんですけど、これを学校の方で補強して頂けると大変いいことだと思いますけど、まず家庭と学校の連携でキャリア教育をどうやってやっていくかということが、全然話になかったのが私は不思議だったんですけども、その点はどのように考えておられるのか、教えていただきたいなと思いますけど、いかがでしょうか。

○加来正晴教育長

当然学校ではこんなことに力を入れてやっていますよということは、家庭の方にも学校で行っている教育については、保護者の方地域の方にきちっと伝えていかなくちやいけないと。今地区の市政懇談会等おじゃまして、2地区終わりましたけど、やはりキャリア教育についてもご質問いただきましたが、市民の方たちは理解が進んでいますよということで、具体的に保護者の方、地域の方にこの中身について、努力していきたいとは思っていますが、少なくとも今お子さんが小中学校、あるいは幼稚園保育園に通っている保護者の方たちには、こういったものをお配りしていますが、まだまだ理解が進んでいないと思いますので、そこら辺は課題だなと思っています。学校ではこんなことしていますよということは、きちっと伝えていくことに各学校努力をしておるつもりですけど、これからの課題です。ただ、キャリア教育というのは、特別なことをするわけじゃないんですよ。いろんな説明が先ほどありましたが、全部の学校が、いろんな教科、領域を毎日5時間なり6時間やっていますが、そのベースになる、バックボーン、これがキャリア教育の考え

方ということでありますので、そこら辺のところをいかに理解させていくかというところ です。

○山本博信委員

加来先生が考えておられるキャリア教育、本当にダイヤモンドの輝きだと私は思いますけど、その輝きが保護者に伝わってないんですよね。なおかつ、市民にも伝わってない。非常に残念なことだと思います。もっともっとPRをしていただくということを、まず第1に。それと先ほどもお願いしましたが、家庭と学校の関連というか、関わり合い方。これもしっかり示していただかないと、せっかくいいことやっけていても前に進んでいかないんじゃないかなという気がします。それと、プラスは家庭、学校、そして社会ですよね。この3つの教育の中でこのキャリア教育をどうしていくかということも加来先生の方でしっかりと示していただかないと、せっかくいいことやっけていても、ダイヤモンドの輝きがかすぶってしまうんじゃないかという気がしますので、是非そこら辺のことをしっかりと示していただきたいなと思います。

○山内悟委員

特に質問というんじゃないですけど、今レクチャー受けて、大変そうだなと思いますので、一言発言させてもらうんですけど、今山本博信委員から家庭が本来やるべきことじゃないかという話がありましたけど、今起きている現象、いじめや不登校、子どもの自殺という現状の中で子どもが夢を失っているという現実があると思いますので、その背景には子どもが親を見て、私もお父さんみたいになりたいという子どもがいったいどこに居るだろうと。今問題になっているのが、若い世代で2人に1人が非正規労働だ、フリーターだ、アルバイトだ、パートだ、一生懸命働いても年収200万円が1千万人だという中で、子どもが親を見ても夢を持ってないもんだから、そういう今いろんな現象が起きているんじゃないかというのが、このキャリア教育の背景にあると思うんですよね。当初文科省はキャリア教育を進めていくうえで、キャリアつまり職業だと。経歴だと。社会に出てすぐに役に立つ人間を作るんだと言って、狭い意味でのキャリア教育を当初は予定していました。ところがいろんな識者や委員がいろんな意見の中で、そうじゃないと。やっぱりキャリア教育、何のための生きるか、生きる力を簡単に命を粗末にさせない。そういうところから発想が転換してきたんですよね。僕が今、家庭を見て家庭でやるべきことがやれてないもんだから、それをやっぱり教育の場で補完しなきゃいかんのかなと思っています。今回成小を見させていただいて、イチローの写真が貼ってあったんですね。イチローがあんなに世界的に、日本でも国民栄誉賞を2回も3回も推薦されながら本人は断っているという中で、どういう努力を積み重ねていたかというのが、大きな掲示であって、私も注目したんですけど、やっぱり子どもたちが夢を見る憧れを持つのに身近な親じゃなくて、やっぱりそういう社会的に評価された人や世界で頑張っている人たちを見ると、ウキウキワクワクしてくるんじゃないかなと私は思うんです。だから、私それでいいと思っています。だから。このキャリア教育は本当に半田が日本でも誇れるくらいなキャリア教育の成果が出ることを期待しながら、私たちもできるところで支援していきたいという感想です。この前行ってきた宇都宮と小平市、半田は半田のやり方でいいと私いいと思っているんです。ただ、いいところは取り入れてもらって、幼保の教員の交流だとか、私この前の阿久比はちよつと他の委員会があって行けなかったんですけど、行かれた方もみえると思うんですけ

ど、半田は半田で幼保小中の教員の交流や、そういう実践も是非積み重ねていってほしいなと思います。

○渡辺昭司委員

説明ありがとうございました。加来先生が教育長になられて2年弱ということなので、今からどう浸透させていくのかなということが大きな課題なのかなと思いましたし、昨年監査委員で少し小学校や中学校行かせていただいたときに、校長先生にキャリア教育とか一貫教育のことの考えをお聞きしたことがあったんですが、なんとなく統一されているのか、当然いろんな校長先生の考え方だとかあったのでと思ったんですけど、先ほど言われたみたいに各学校の中でのやり方でキャリアをつませるやり方もあるかと思うんですけども、今から半田の軸としてというものをどのように先ほど課題があると言っていましたけども、そういったことをやっぱり、これがベースだよということは今成岩小学校がやっているようなものが中心になるかと思うんですけども、そういったことを校長先生達にいろんな考えがある中でそういったことを少し飲みこんでいただくようなこと、当然視察先2地区行ってきましたけど、教育委員会だとか学校の先生とか校長先生にどういうふうを受け止めてもらうかということの問題が、最後はそういうことになってくるのかなと思いましたけど、非常に素晴らしい考えの中でかっている部分がたくさんお聞きできたので、是非そういったことは浸透させていって、加来先生にはそういったことにはしっかりと取り組んでいただきたいなと思っています。

○澤田勝委員長

他にご質疑ありませんか。

○加来正晴教育長

貴重なご意見ありがとうございました。キャリア教育という言葉子どもたちや保護者の方や地域の方にさせていただこうとは思っていないんですよ。キャリア教育という言葉はどうでもいい。先ほど指導主事が説明しましたように、よりよく生きていくためには、やっぱり人は1人では生きていけないので、いろんな人とかかわって生きていく。そして自分の良さを知らない。いわゆる自己肯定感ですかね。自分にはこんな良さがあって、それを1つ乗り越えたら、次へのチャレンジのこととか、いろんな様々な壁にぶつかった時に乗り越えていける力だとか、それからすでに人生というのは、選択をしなければいけない。どこの高校を受けるだとか、どんな職業に就くかとか。その4つの力、これはそれぞれ独立しているわけじゃなくて、ねじりん棒のように絡み合っていくと。その考え方だけはきちっと伝えていかなくちゃいけないなど。今日も成岩小学校がクローズアップされましたけど、成岩小学校が平成24年、25年と教育委員会が研究指定をしました。予算もつけて、大学の先生、この前も神谷先生という方が説明されました。あの方が愛知県のキャリア教育の第一人者ということで、県の義務教育課の方でも指導してみえまして、たまたまその方が半田に住んでいて、良い環境にあります。そんなようなことでありますが、他の学校についても学校経営案というのを必ず作っています。その中にキャリア教育については必ず触れております。年間計画でも他の市町よりも進んだものを作っています。ですから、成岩小だとか有脇小が特別に進んだことをやっているわけじゃなくて、他の学校もきちんと取り組んでおるということで、ただ、これからまだまだ前進していかなければいけない。これも本当に先ほど言いましたが、私自身も随分改定しなくてはいけないと思っています

ので、またいろんな角度からご指導いただいて、より良いものにしていきたいと思っています。今日はありがとうございました。

○澤田勝委員長

私からも1点質問させていただいてよろしいでしょうか。今回幼保小中一貫教育という閉会中の調査テーマの中で、地域力を活かした学校教育ということサブテーマとして掲げておりますけど、そのなかで前回、県外視察へ行く前に、直前に資料提供をいただきました外部講師の表をいただいたと思うんですけど、その中で民間企業の企業名が55件192人ですとか、公的な機関ですとか、ゲストティーチャー等の資料をいただいたんですけど、その中で、地域というのが校区内で92件で832人という数字が出ているんですけど、この内訳というのが、もしわかれば。あるいは地域力をどのように活かしているというのがご説明の中ではちょっとあまりお聞き出来なかったのかなと思いましたので、地域のかかわりについて、現状が少しわかれば教えていただきたいと思います。

○白城智教主任指導主事

地域はですけど、お手元にあるように校区内の方、それから半田市内の方を対象にあげています。保護者の方もその中に入れるということですので、具体的にどなたがどういうことをしたのかということについては、詳細に調べないと言えないところですけど、どんな方が外部講師にあたっているのかということで、調べてみましたので、今のところこのあたりのことしか言えず、申し訳ありません。

○澤田勝委員長

また、今日じゃなくて結構なんですけど、リーフレットの中にもご案内ですけど、全体の推進組織の中にもですね、連携ということで、地域、企業も書いてありますけども、もう少しそこら辺が表に出てきてもいいのかなという風に、当然ゲストティーチャー等も招いてやっているわけですし、その他NPOの方々とか講師を招いているわけですので、その辺をもう少し今日お聞きできればなと期待していたので、今後どこかの時間でも結構ですので、地域との関わりというか、もう少し詳しい内容が配布できるように頂きたいと思いますので、よろしくをお願いします。

○波田聡指導主事

自分が今のことについて十分まとめているわけではないですが、例えばということ言わせていただくと、成岩小で職業人の話を聞く会というのが本年度、昨年度も行われているんですけど、その中では地域に住んでいるトリマーの方とか、また成岩小校区のケーキ屋さんとか、パティシエの方が来たりとか、青中校区も毎年職業人の話を聞く会をやっているんですけど、地域に住んでいる板金の工場の方に来てもらうとか、毎年PTAの力を借りるといところが大きいんですけど、そういう校区で働いている方を呼んでというのが中心ですので、そういう形では地域の力を活かしてということでは行っているのかなと思います。

○澤田勝委員長

ありがとうございました。協議題1の幼保小中一貫教育における半田市の現状については、この程度にしたいなと思います。前回の委員会で、2点ご質疑が生まれて、回答は次回ということでしたので、その時の習熟度別学習についてと、学力テストについての説明をいただきたいと思います。

○波田聡指導主事

【資料に基好き説明】

○澤田勝委員長

ありがとうございました。これについて、何かご質問ありませんか。

○山本博信委員

少ないところでやっただけなんですけど、この少ないところでの実行なんですけど、効果ってどういものが認められたのでしょうか。

○波田聡指導主事

習熟度別は、自分も現場に居る時に行っていたんですが、やや減ってきている傾向にあるなど。どうしても自分も現場に居たときの感想でいいますと、ちょっと得意な子と苦手な子を分けるというものに対して、教師の方もやや抵抗があったり、子どもの方も非常に気にするということが、実際に習熟度別を行っている学校も、保護者に紙を出して、どちらのコースを選びますかという保護者の意向も十分汲み取りながら、理解を得ながらやっていくところです。もちろん子どもたちがお互いに、自分はできる、この子はできないという見方をしないように指導を進めていくんですが、子どもたちの方にもそういう思いを持ってしまわないかという心配があるものですから、減ってきているなど。それよりも、1つのクラスの中で、要は子どもたちの関係を教師も把握しており、また子どもたちとしてもそのクラスの学習に慣れているところでのTTの方が、そういういろんな心配面が少ないということで、減ってきているんだろうなと思います。どちらがどれだけ効果が上がってという、また今習熟度別をやっているところも、いろいろ検討していきながら、その1校もいろいろ検討しながらやっているもので、実際にある1校も6年生ではそういうこともやっているんですが、1年生、2年生ではTTで行い、3年生から5年生では、得意な子、不得手な子ではなくて、細かくわけてやり、6年生で大きく差が開いてくるので、習熟度別でということはやっていますが、いずれもどちらがいいとか悪いとか、なかなか言いづらいところがあるなど。一番大事なのは1人1人の学びを大切にするというのか、保障するということが一番大事だと思うものですから、これははっきりとどちらがどれだけ成果がというのと言えないのが現状です。

○山本博信委員

習熟度別授業も1つ方法だと思うんですけど、要は全体的な底辺の底上げというのが一番大事だと思うので、それも難しいと思いますけども、底上げを効果的にやっていただくことをお願いして、終わります。

○澤田勝委員長

それでは、学力テストについてお答えできる範囲でお願いします。

○波田聡指導主事

【資料に基づき説明】

○澤田勝委員長

学力テストについて説明をいただきました。ご質問はありませんか。

○山本博信委員

調査の目的の中に、「教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する」、もう1つは「教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる」という目的があるんですけども、これ

は半田市としてはどのような具体的なものがあるのか、あったら教えてください。

○波田聡指導主事

私は教員については研修を担当していますので、教員の研修ということでお話をさせていただくと、この学力学習状況調査の結果を受けて、去年は抽出の実施だったんですけど、その中でやはり一部こういった力をもうちょっと育てていきたいというのが半田市のところでも出た中で、そうれを受けて夏休みの教員の研修、今年は国語、算数、理科、社会の実技研修を行ったんですが、その中身について、全国学力学習状況調査の結果を受けて、国の方から重点的に取り組んだ方がいい内容がありまして、それは半田の結果を見ても同じような内容だったので、その内容について教員が実技研修として学ぶ場を持っています。基本的には教員が力をつけることが一番だと思っているので、そういう観点で毎年の研修等を行っている状況です。

○山本博信委員

学校によって成績の格差があると思うんですけど、それもできたら是正して頂きたいなと。これは大変難しいことだと思いますけど、これについてはどのようなやり方をしているんでしょうか。

○波田聡指導主事

おっしゃる通りだと思います。特に学力学習状況調査は、そこにありますように、いわゆる知識に関する問題と活用に関する問題があるんですね。知識はそこにも書いてあるように、これは身につけさせておきたい内容というところであるので、その内容については、教師としては確実に子どもに身につけさせたいと。私も現場に居る時に、特にこの内容は、結果を受けて、特に知識の面で足りないところは重点的に行っていました。具体的には、小テストを細かくやっていくとか、家庭学習でも取り組めるように漢字のテストを学期で行っていくとか、各学校でその結果を捉えて具体的な取り組みをしてもらうということが大事なんですけど、それで今ちょうど各学校の結果を受けて、各学校がこれまでのことをどうとらえて、今後どうするかということを出してもらっているんですけど、これは教育委員会としても今後きちんと指導していきながらやっていきたいと思っています。

○澤田勝委員長

それでは、協議題もこれで終わりになりますが、今までの全体的なこと何か他にございませんでしょうか。

【発言する者なし】

それでは、その他で何かありましたらお願いします。

【発言する者なし】

ないようですので、今日は閉会中の調査テーマで半田市の現状についてということでお聞きしましたが、今後半田市の現状を踏まえて、県内、近隣の県外も含めた視察等も正副委員長で思案していますので、今後スケジュール等も調整して、さらに調査していきたいのでよろしくお願いします。それでは、以上をもちまして文教厚生委員会を閉会します。

午前10時53分 閉会